

平成 18 年度 病害虫発生予察情報 特殊報 第 3 号

病害虫名： リュウキュウミカンサビダニ

Phyllocoptruta citri Soliman et Abou-Awad

対 象： カンキツ類

1．特殊報の内容

東京都小笠原諸島父島および母島でリュウキュウミカンサビダニによるカンキツ類への被害と分布拡大を確認した。

2．発生経過など

- (1) 2005 年秋頃より、父島の農協直売所で販売されているカンキツ類にサビダニによる被害の症状と思われる果実が多く見られた。そこで、翌 2006 年春のカンキツ類の開花時期から、東京都小笠原亜熱帯農業センターのレモン圃場で調査を実施したところ、5 月下旬には多くの幼果に前年秋と同様の被害果が認められるようになった（第 1, 2 図）。また、果実上には多数のサビダニが観察された（第 3 図）。発生していたサビダニは、埼玉県農林総合研究センターの根本 久博士によりリュウキュウミカンサビダニ *Phyllocoptruta citri* Soliman et Abou-Awad（前気門亜目・フシダニ科）と同定された。
- (2) 2006 年 5 月に父島と母島における発生状況を調査したところ、父島では調査したほぼ全てのカンキツ類で被害果と虫体が確認された。母島では一部の柑橘園で被害果が認められたが、虫体は観察されなかった。調査対象としたカンキツ類は、レモン、ダイダイ、ブンタン、オガサワラオレンジなどである。
- (3) 2005 年に観察された被害果実は、ほとんどが港湾施設に近接する地域で生産されたものであり、その前年 2004 年にはこれらの地域においても被害果はほとんど見られなかった。以上より、2005 年に何らかの原因で港湾施設周辺に侵入した個体群がその近隣地域のカンキツで増殖し、さらにその翌年には全島的に分布を拡大したと推定される。

3．形態（第 5, 6 図）

- (1) 体長 0.1～0.2 mm のため肉眼では他種との識別は困難である。しかし、同所的に発生していると考えられるミカンサビダニとの違いは 200 倍以上の倍率の生物顕微鏡により確認できる。両種の大きな違いは次の 2 点である（堀江, 2005）。1 点目はリュウキュウミカンサビダニの背毛は背方に、体に対して真上に伸びるのに対し、ミカンサビダニでは斜め後方の後体部に伸びること。2 点目は後体部背面の形で、前者では U 字型にへこみ、溝を形成するが、後者は U 字型にへこんでいない。なお、実体顕微鏡によりかろうじて淡黄色で長細いくさび形をしているのが観察できる（第 5 図）。*Phyllocoptruta* 属のサビダニは現在までのところ、国内では本種しか分布していない。
- (2) 卵は、透明感のある球形で、その径は 0.05 mm 程度である（第 6 図）。

4．分布・生態

- (1) 本種は、エジプトで 1978 年に発見され、国内では 1995 年に沖縄および奄美大島で発生が確認されている(上遠野, 1995)。さらに、その後の調査で 2003 年までには鹿児島県北部での発生も確認されている(堀江, 2005)。
- (2) 鹿児島県屋久町における越冬状況調査によれば、冬季でも葉および果実上に生息すると推測され、春先に春葉、その後果実で増殖し、秋季に多発するのが特徴であるとしている(堀江, 2005)。

5．被害

- (1) 上遠野(1995)によれば、タンカン、清美などの中晩柑類やシークアワーシャー、オーター、カープチなどの在来のカンキツ類に寄生して果実に著しいさび症状を引き起こす。
- (2) 小笠原での観察によれば、被害果の果皮は通常ケロイド状を呈し、症状がさらに進むと、果皮は褐色から黒色に変わり、ケロイドが硬くなり、いわゆる“サメ肌果 (sharkskinning fruit)”となる。

6．防除対策および注意

- (1) 本種に対する登録農薬としては、石灰硫黄合剤とマシン油乳剤が果樹類(作物群)に対して登録されている。これらは、薬害が生じやすいので使用に際しては注意が必要である。また、2006 年 7 月 31 日付で、カンキツでのコテツフロアブルの登録拡大がなされた。商品によって登録内容が異なる場合があるのでラベルの記事をよく読む必要がある。
- (2) 寄生果実を見つけたら早期に徹底的に摘み取ること。未発生地においては虫の侵入を防ぐことが肝要である。発生地では寄生株の果実や葉、茎に虫が付着していることが予想されるので、苗の移動にあたっては注意を要する。なお、防除対策などの問い合わせは病害虫防除所に連絡のこと。

7．参考文献

上遠野富士夫 (1995) 千葉県農業試験場特別報告(30): 17-20 .

堀江宏彰 (2005) リュウキュウミカンサビダニの発生生態と防除の展望 . 今月の農業(6): 36-41 .

8 . 図 : 第 1 ~ 6 図



第 1 図 レモン幼果被害状況 .



第 2 図 レモン幼果被害状況 (激甚) .



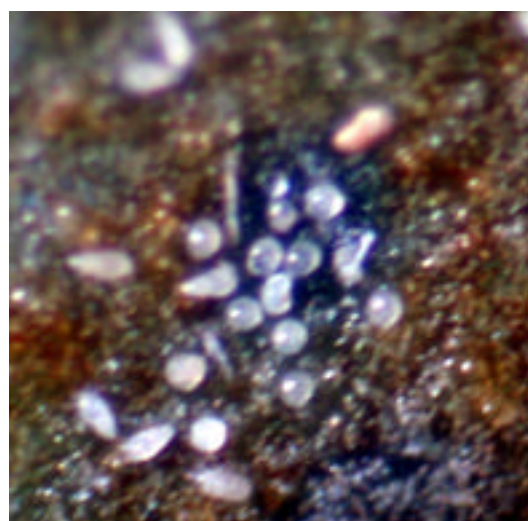
第 3 図 果実表面への寄生状況 .



第 4 図 果実表面への寄生状況 (拡大) .



第 5 図 若虫と成虫 (拡大) .



第 6 図 卵と孵化した若虫 (拡大) .